

よりそう

Side by Side



第62号

編集責任：延藤

編集担当者 三好 延藤

林崎 慶治 さん
三平 廣幸 さん
新田 敏彦 さん

ご苦労様でした

四月とかわっていない。

林崎さんは、総隊長として、三平さんは釜石市箱崎地区現場責任者として、新田さんは、大槌町地区現場責任者として、遠野まごころネット発足の4月当初から100日前後にわたって活動されました。本当にご苦労様でした。

林崎さんの朝9時話話、初参加者の心とピンツと引き締める役割を果し、現場での具体的な助言は適確でした。

三平さんは、遠野まごころネットが箱崎地区へ入っていく道を切り拓いてまいり、土木建設業の経験が瓦礫撤去のしかたを安全確実にできるやり方をボランティアのみなさんに教えていれました。又、一般個人参加ボランティア(体育館和音組)のルール作り・ミーティングを私と一緒につくってもらった方でした。

新田さんは、にこやかな笑顔で参加ボランティアに「ホッ」とした気分をもたらし、安心して活動できる雰囲気をつくられ、「新田さんのおかげで又、来てみたい」という熱烈なファンができました。

四月当初からかわった者として、この御三人の姿を見ることができたのはホッとし、寂しい思いをしました。しかし、若年のリーダーが出現した。活動はもっと早く展開するでしょう。
三好様ニ

7/20、台風通過のため、陸前高田・釜石・大槌三地区全て野外での活動は中止になった。(但し、7/16日での避難所・仮設住宅・復旧隊などに行なわれまして。)初参加者・滞在日程が厳しいボランティアのため「現地視察」のバスを赤松福祉協議会へ出してもらった。陸前高田地区約100名、大槌・釜石地区 21名の参加でした。

箱崎地区は5月21日～6月2日に比べれば軒並み少入り。遠野まごころネットボランティアの力の奮闘で片づかしてきた所ありと実感しました。また「人の力」が必要で、大槌町安渡地区は、まだ搬出用の道路の一部で、閉鎖されている状況で、四月二十日頃私が入った各地区の状況とかわらず震災後132日経っているのに、早く片づかすという印象を保持する。臭いもかなり強いはたす。この地区は、多くの人数のボランティアが参加していると思はれる。

「東北ケア」と交流

アメリカを本拠地とする「バプテスト 宣教師団 (バプテスト)」の人々が東日本大震災 緊急支援のため、この遠野市にボランティアの拠点として民家を借り上げ、センターにしておられる。5月の第一次遠征隊から14日連日参加が続き、7/18に「コーヒーでも飲ませよう」とお誘いがあつた。センターで交流しました。英語は片ことですが、PM8:00までの交流時刻をPM9:00まで延長し、もう一組の母娘と大槌町 セミナリ、



7/22(金) 天気 晴

気温 21℃

降水確率 0%

※月曜・木曜は休刊日になります。

まごころ種 募集

くわしくはHPへ

7/22(金)ボランティアミーティングはPM4:30～@体育館

7/22(金)の宿泊：72人、活動：152人